



8時30分
避難所開設訓練の部開始



8時50分
一斉避難の部開始



9時20分受付開始



9時30分
受講と体験の部開始





はじめに

大震災を経験すれば、ただ今の平穏な日常が愛おしく感じられます。これを想定せねばならないのが防災活動です。面白いものではありません。しかし、令和7年度訓練には多くの方に御参加いただきました。ご理解ご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。令和7年度訓練「略称…一斉避難訓練」を実行するにあたっては、R6年会報第9号により、当自主防災会の目的や準備済の実状などをそして、10号11号により訓練の案内をお知らせしました。

第3回避難所開設訓練
(略称)一斉避難訓練

I事前準備

- R7218計画説明会 自治会長、自主防会長、理事計38名
- R7413炊出し試作会 子ども食堂有志と公運協女性部計18名
- R7413手順別訓練手順2、及び備品等披露会 計43名
- R7727手順別訓練 手順2 (第2回目)の10名
- R7819第2回目実施説明会

II避難所開設訓練の部

- 自治会長と理事 計30名
- R792手順別訓練 手順3・4・5の計14名
- R799手順別訓練 手順6・11の22名
- R7919手順別訓練 手順7・8の計14名
- R7101出欠とりまとめ
- R7106手順別訓練 手順9・10の計19名
- R71017手順別訓練 手順12の計10名
- R71021定例会議 理事打合せ
- R71022開設リーダー打合せ会 計8名

8時30分開設訓練開始。
手順1、3、12迄82人で開設。
(他小学校内準備16人)
9時20分開設完了、受付開始。
入所受付による「避難所利用者登録票」提出は、当初は参加者全員を予定しましたが、世話役に徹する人もいて、体育館内で273枚402人分、16カ所の地元集会所等で157枚232人分、合計430枚634人分の提出がありました。「避難所利用者登録票」徴求に注

力する理由が、受援体制の早期確立目的にあることを以前からお伝えしていましたが、この訓練により参加者の積極的な姿勢が見て取れて少し安堵しました。
また、記入内容では、アレルギー27人、病気等38人、医師1人、看護師4人、介護福祉士1人、精神保健福祉士1人、言語聴覚士1人、手話1人などが申告されました。アレルギーは11才までの子どもが11人を占めますが40、79才でも万遍に16人も存在することは要注意です。

参加世帯数の算出		
避難所利用者登録票回収枚数	体育館	273
避難所利用者登録票回収枚数	集会所等	157
お世話に専念		22
炊出し（女性部）		35
合計＝参加世帯数の合計		487

III一斉避難の部

令和7年10月26日（日曜）
8時50分巨大地震発生を想定。雨天の中、574人の住民が、8時50分に自宅を出ました。
そのうち232人は、地区内16カ所のそれぞれの地元集会所や自治会館に避難しました。そこでは後刻、情報連絡訓練、炊出し配食訓練を行います。
残り342人は、常磐小学校まで徒歩で避難しました。
これとは別の133人は、避難所開設訓練と炊出し訓練受任者として先に小学校とコミュニティセンターに集合済です。
(参加総合計707人)
小学校への避難者は、それぞれの避難距離によって到着時刻が異なり、遠方からの避難者は開設訓練を見学できないこととなりますが、そこは諦めて、受付と入所以降の訓練を予定しました。

総員 707	
集会所等	232
小学校 計440	82
	16
	342
コミュニティ センター	35

Ⅳ 受講と体験の部

9時30分～11時00分

Aコーナーとして、日本赤十字社香川県支部の皆さんに「一次救命処置講習・心肺蘇生とAED使用方法」を運営いただきました。

10時00分～11時15分

Bコーナーとして、香川県防災士会西讃ブロックの皆さんに「断水トイレ対応体験」を運営いただきました。

10時20分～11時40分

Cコーナーとして、観音寺市危機管理課の皆さんによる「段ボールベッド組立解体体験」を運営いただきました。

このABC各コーナーは、区内に17ある子ども会の参加を狙って、専門機関にご尽力いただきました。自治会加入率が低下する時代にあつて、腰を据えて加入促進を図りたいからです。自治会は、日本赤十字社や防災士、行政を支え支えられていることを認識してもらい、子ども会の親子世代にも社会性や協調性を育んでいただけるよう期待するものです。特に、巨大地震対策の実働は、自治会組織でなければ成り立ちません。その為、当自主防は、自治会協議会を中心に置いた上で関連重要団体長が加わり組成しています。

V 炊出しの部

常磐総合コミュニティセンター

調理室と1階全体に借り物の大型炊飯器とガスコンロを並べ、「豚汁750食」「140g大のおにぎり500個」の炊出しを引き受けていただいたのは、ときわサンサン子ども食堂運営有志、常磐公民館運営協力委員会女性部、自治会女性部の総勢35名の皆さんでした。

前日は、下準備に2時間、当日は、8時00分～10時19分の2時間強で仕上げられました。

小学校側と集会所等16カ所から、それぞれ炊出しを受け取りに行き、小学校では、校舎廊下を給仕と食事場所とし、廊下に腰をおろし食べていただきました。

集会所等向け「おにぎり」は購入したものでしたが「豚汁がおいしい」と好評を博しました。

豚汁具材は、一般的に多いピーナツアレルギー材を第1に排除し、喉に詰める恐れのある「こんにゃく」をやめ「厚あげ」を代用されたのは食のプロの仕事でした。

Ⅵ 集会所等へ避難の部

「避難所利用者登録票」を157枚232人分徴収し、受援体制構

築の重要性を認識いただいたこと、情報連絡訓練として、常磐地区自治会協議会が持つLINE公式アカウントに集会所等代表者16名が全員参加し、次の項目を自主防本部と交信できたことが直接の成果でした。

「1集会所等の名称 2代表者名 3避難所利用者登録票の徴収枚数 4避難者数 5死傷者数 6昼給食の必要数 7炊出し受取時刻」

「久しぶりの集いが嬉しかった」との声も多くありましたが、「防災意識は高くも、高齢のため自宅を出られない」方が多かった旨の報告は気がかりです。

むすび

令和7年9月に人的被害想定が見直され、常磐小学校避難者1870人を最大想定とせねばなりません。そのような中で、今回、体育館に440人が入場し、避難所運営に必要な膨大かつ貴重な気づきやデータを得ました。他に多数の意見も結果論を承知で集積し今後に活かしたいと考えています。

また、今回は、訓練の範囲を広げたため、多くの役割分担が必要になりました。具体的には、小学校とコミュニティセンターにおける役割数133人分、並びに、各地集

所等役割数48、避難代表18など計199人分。更に炊出し運搬給仕、ゴミ処理などもありました。そして、これらの人材はすべて、地区内20名の自治会長さんを選任願ひ派遣いただきました。派遣等に際しては難しい点を含むと思いますが、各位より否定的な発言を一切聴くこともなくすべて実行いただいたことは特筆すべき点です。

更に、「おいしく安全に」750食という大量の炊出しを難なく実現された女性有志の実力はまさにお見事でした。

聖人君主を求める訳ではありませんが、辛さ苦しさ嫌悪感などの困難を伴っても表に出さない、汚物処理も厭わない、それでいて役割を果たし平然とされている方々、訓練をとおして、そうした方々に沢山出会うことができました。自主防災会として、感謝の念に堪えずまた成熟した尽力の多さを感じ、このような立派な常磐地区を誇りに思う次第です。

末筆ながら、皆様の今後の安寧とご健勝を祈念申し上げます。

R7年12月会報第12号発行元・常磐小学校区自主防災会：記事横山楨三。当会詳細は「観音寺市常磐地区自治会協議会」ホームページに連結団体として掲載。